

情勢報告

就農相談日を設置による就農促進



新規就農者の確保を目的に22年1月から芸西・安芸・中芸・芸東の4地区ごとに、毎月1回の就農相談日を設置し、定期的に相談を受けるようにしている。1月28日は芸西村で、役場職員も同席し、A氏の就農計画や資金の手続き・施設装備等について提案や指導を行った。A氏は1月の相談日に訪れ、この日が2度目の相談であり、次回の相談日も決めた。今後も、就農相談日設置のPRをすると共に、新規就農者（特に農家指定）の確保を推進する。

JAとさし高石支所ユリ部会との産地交流会



車の入る作業道確保目的でまわりの品種より収穫の早い品種を作った。

1月28日にユリ栽培の先進地であるJAとさし高石ユリ部会へJA土佐あき花卉部球根部会（9戸中8名、JA2名参加）が訪ね、おもに現在の冬期の栽培管理について現地研修を行った。

お互いに冬期の主要産地だが、主な栽培品種、球根サイズや輸入先の違い等がある。この日は総勢19名の参加があり、施肥量、肥量名等施肥方法、作終了後の土壌消毒の方法等多くの栽培技術に関する質問疑問がJA高石支所側に投げかけられ、ハウス内で活発に意見交換が行われた。

よきライバル産地であり、お互い教えあい学びあう場としての研修でもあり、あらためて良い物を作ろうという意欲が刺激された産地交流会であった。

西山きんとき芋の下級品対策推進



2月8日、部会（10名出席）が開催され、振興センターは次作の下級品対策に向けた支援計画を提案し、部会から計画の合意が得られた。特に下級品対策としては数年かけて系統選抜等に取り組むこととしていたが、新たな課題としてはほ場全域で問題となっている野ねずみの食害対策が加わった。21年度に編成した加工・販売・栽培技術班に加え「野ねずみ対策班」を作り、早速12日に耕作放棄地や雑木林等の周辺に捕そ器（市販ねずみ取り器2器、2Lペットボトル細工器8器(写真)）を設置した。今後は活動計画を明確にし、振興センターと部会、JAが連携して駆除対策に積極的に取り組む。

ナス‘土佐鷹’の面積拡大のために、推進説明会が始まる



23園芸年度の土佐鷹の面積拡大のために、JA土佐あき管内の各地区で推進説明会を行っている。推進説明会は農家に対して、土佐鷹の必要性や品種の特徴、市場など消費地の評価や販売での取り組みなどを理解してもらうためのもので、現在まで安芸（2月8日）、芸西・赤野地区（2月18日）で行った。

振興センターは、消費地評価や販売以外の栽培面での取り組みを説明した。また、現地検討会を行ったり、産地の雰囲気作りとして手作りのポスターやチラシを作成、掲示するなどに取り組んでいる。

今後、苗の注文締め切りである3月末までに残りの地区で行う予定である。